



十小だより

令和 8 年 5 月 3 0 日
第 3 号
府中市立府中第十小学校

「いじめモンスター」を倒そう！！

校長 草刈 あずさ

5月の半ばから、さながら夏のような気温となりましたが、子どもたちは元気に5月を過ごしました。5月は、1年生の府中の森公園への遠足、2・3・4年生の野川公園への遠足、5年生の英語体験施設への校外学習をはじめ、2・3年生のまち探検などの学校近隣の探検と、学校外での活動が盛りだくさんで、リュックサック姿でテンションが高めに、開門を待つ子どもたちの姿が連日見られました。6月は、6年生のこころの劇場や社会科見学、5年生のわくわく自然教室など、高学年も校外学習や宿泊学習が続きます。体験はとても大切な経験ですので、体調に気を付けながら、いい学びをしてほしいと思います。

さて、府中市では令和8年度に、これまで以上に「いじめ防止」の取組に力を入れ、中学校区でいじめ防止についての共有を図る取組を行っています。府中十小では、友達から嫌なことを言われたり、されたりすることが、毎月起きています。「いじめはよくない」「いじめをなくそう」と全員がわかってはいても、日常生活のやりとりの中で、相手を傷付ける行為がなかなかなくなります。

そのため、具体的にどんな行動が相手に嫌な思いをさせるのか、やめた方がいい言動はどんなことなのかを、一人一人が考え、行動に移していけるようにしたいと思っています。言葉だけでは印象に残りにくいので、「いじめモンスター」として、府中十小で起こっている、起こりそうないじめになる言動を話し合うことにしました。5月の全校朝会で簡単に話をしましたが、これから特別活動部を中心に、委員会活動や学級会を通して、いじめモンスターについて考えていきます。はじめは「人をあおる行為」から始めます。子どもたちは面白半分、仲間意識から悪気もなく、友達をあおっていることがよくあります。あおっている側の軽い気持ちと、あおられた人の悲しい気持ちを考えさせ、日常化しているあおりをなくす意識をもたせることを目指します。

「いじめモンスター」をキャラクター化するので、「あおり屋」のイメージを子どもたちに考えさせ、生成AIに指示して、キャラクターを作り、昇降口に掲示します。すぐに、行動が変容しない子もいると思いますが、「それって、あおり屋になっているよ」「あおられた人の気持ちを考えてみよう」という声かけをすることで、行動が思いとどまる意識が生まれることを期待しています。

子どもたちの言動の一部は、保護者の方や教員の言動をまねしている部分もありますので、私たち大人も十分に気を付けていかなければなりません。協力して、いい言語環境、やさしい声かけなどを子どもたちに見本を示せるようにしていきましょう。



生成 AI で作成したモンスター例